

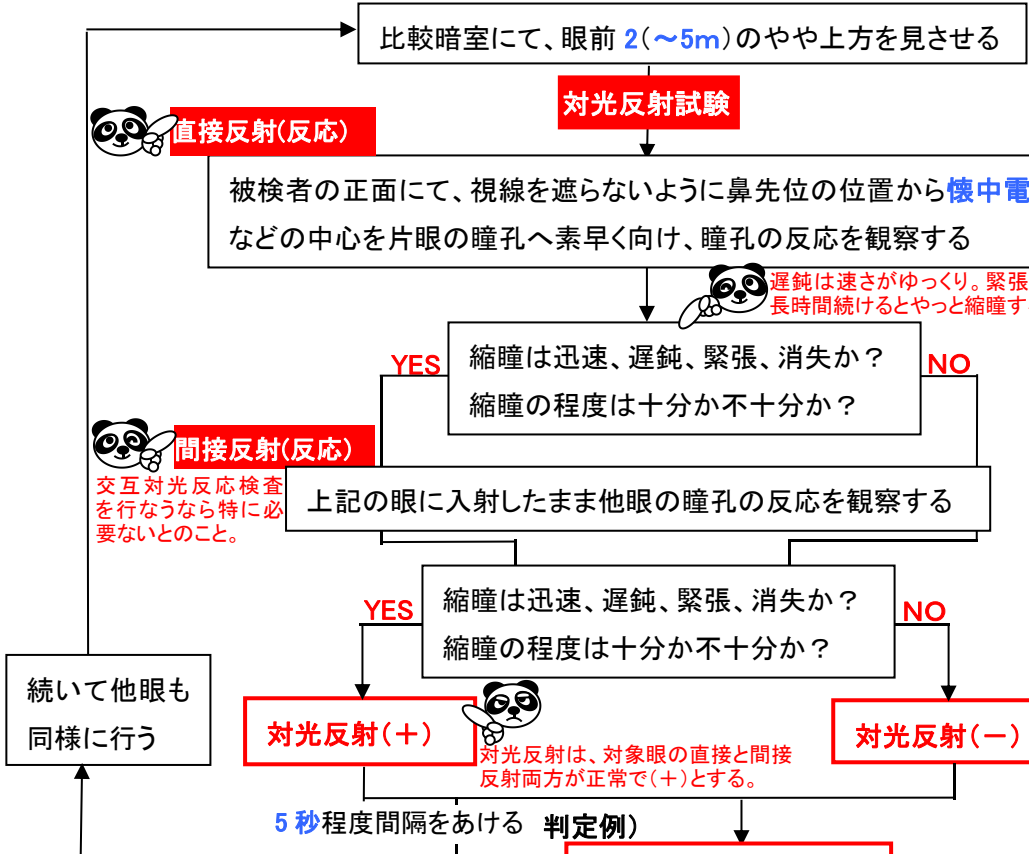
# 瞳孔検査(対光反射試験・交互対光反射試験:swinging flashlight test)



目的

瞳孔の観察による瞳孔経路の異常を  
発見しての原因、疾患の究明

準備物 固視目標・懐中電灯(ブライツコープ)など



両眼瞬時に見ること。  
対光反射は縮瞳する動きをみて、交互対光反射は相対性入力障害をみる。

## 瞳孔の異常一覧参照

## 交互対光反射試験

目的

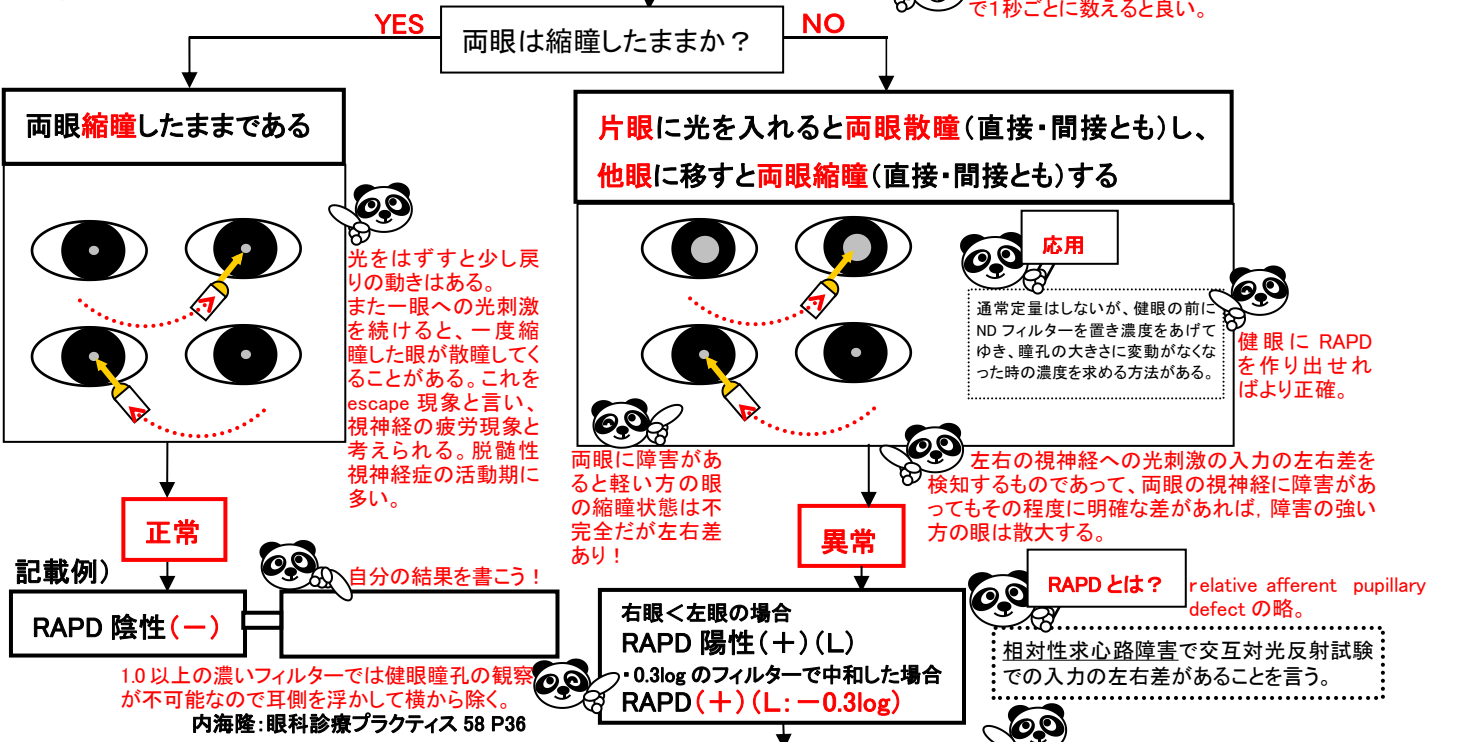
瞳孔の観察による主に視神経や網膜など視交叉より末梢の相対的な求心性瞳孔障害の検出

両眼の対光反射検査後に続けて行うことが多い。

この検査は本来暗室にて行うが、間接反射が観察できないので、比較暗室で良い。瞳孔に光を当てている時間は左右均等にしなければならない。一般的に1秒間隔が良いとされているが、微細な障害を見逃さない為には、少し長く(2~3秒)の方が良い。

(比較)暗室にて懐中電灯などで一眼の**直接対光反射**を十分(1~3秒)に起こした後、その光を素早く他眼へ移し再度**1~3秒**光刺激してから約**1秒**間隔で**2、3往復**連続して行う

光を当てた瞬間を0、次に1と言葉で1秒ごとに数えるが良い。

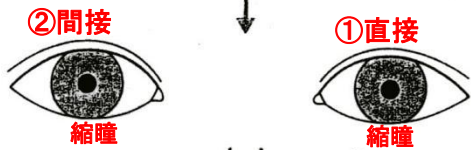


両眼散瞳時、光を入れた方の眼(直接反射眼)の異常又は他眼よりも障害が強い

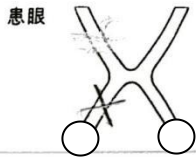
異常眼をswinging flashlight test陽性又はMarcus Gunn瞳孔と言うが、本来のMarcus Gunn瞳孔とは明室で行うもの。



① やや薄暗い部屋で、一定距離の視標を固視させる。

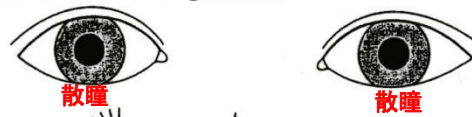
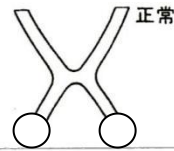


② ペンライトで一眼に光を入れる。



右眼視神経障害の場合

正常の場合



散瞳



散瞳

③ 患眼の右眼に光を入れると瞳孔は散大する。



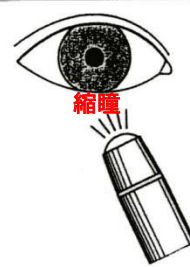
縮瞳



縮瞳

テスト陽性

④ 健眼の左眼に光を向けると再び縮瞳する。



テスト陰性



縮瞳

⑤ 正常者では光を一眼から他眼へ移しても、瞳孔の大きさはほとんど変わらない。

